生徒に見られるつまずき

　ヒストグラムや度数分布表から相対度数を求めることができない

つまずき解消に向けた指導のポイント

　「相対度数」を考えないと比較できない資料を提示し、読み取ったことから何が言えるのかを、根拠をもとに話し合う活動を通して、相対度数についての理解を深め、活用する力を養う

指導事例集ｐ．５７

１　学年・単元名　　第１学年　資料の活用（資料の活用領域）

２　単元目標

・相対度数の意味、また、相対度数を求める必要性について理解する。

・ヒストグラムや度数分布表から相対度数を求めることができる。

３　単元の内容

・度数分布表

・ヒストグラム

・相対度数

・資料の比べ方

４　本時の目標

相対度数の意味、また、相対度数を求める必要性について理解し、実際に相対度数が求められるようになる。

５　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 生徒の活動 | 指導上の留意点  **太字：つまずきに対する手立て** |
| 導入  展開  まとめ | 1.　課題を知る。  「次の度数分布表は2つの中学校の学習時間を調べ、その結果をまとめたものです。この度数分布表を見て、学習時間が長いのは、どちらの中学校になるのか、予想してみよう。また、その理由も考えてみよう。」  ワークシート①使用  「B中学校が学習時間が長い」  ・１５０分～１８０分の階級の度数がＢ中学校の方が高いから。  ・A中学校は１５０分～１８０分の階級の度数が０だから。  「A中学校とB中学校の同じ階級の度数どうしを比べてもよいのだろうか？」  ・全体の人数が違うから、このままでは比較できない。  ・全体の数が違うから、割合を求めないと比べられない。  2.　相対度数の意味と求め方  割合を使って比較してみましょう。どのように求めればよいでしょう。  ワークシート②使用  ・０分以上～３０分未満の度数を見ると、A中学校が３なのでこれを全体の人数３０で割ると0.1、 B中学校は１２なのでこれを全体の人数１５０で割ると0.08になる。  ・相対度数を定義する。  各階級の度数の、全体に対する割合をその階級の相対度数と言います。    階級の度数  相対度数=  度数の合計  ・相対度数の分布表を完成させましょう。  相対度数の分布表からどんなことが言えますか。  ・相対度数の合計が1になる。  ・A中学校は真ん中あたりが多いが、B中学校はあまり勉強しない人とする人に分かれている。  ３　まとめ  ・相対度数の求め方。  ・相対度数を求めることで、度数の合計の違う資料を比較することができる。 | **・単純に度数だけで比較することに疑問をもたせる問題提示の仕方をする。**  **・「相対度数」を考えないと比較できないことに目を向けさせていく。**  ・度数の合計が違うことに着目させる。  ・割合という考え方が出てきたら、次につなげていく。  ・電卓を利用させる。  ・小数第3位で四捨五入する。  **・様々な気付きを出し合うことで、読み取り方によって、結論が異なることに気付かせる。**  ・左の様な意見から相対度数の度数分布多角形へつなげる。 |